

図 4. A, 島根県松江市島根町佐波, 小河川, 河口部; B, 松江市八束町森山堤防, 護岸, 転石域; C, 松江市美保関町森山, 礫・砂泥域; D, 海士町福井 (隠岐諸島島前中ノ島), 礫・砂泥域; E, 島根町加賀桂島, 南側の湾, 砂域; F, 松江市鹿島町古浦, 砂浜.

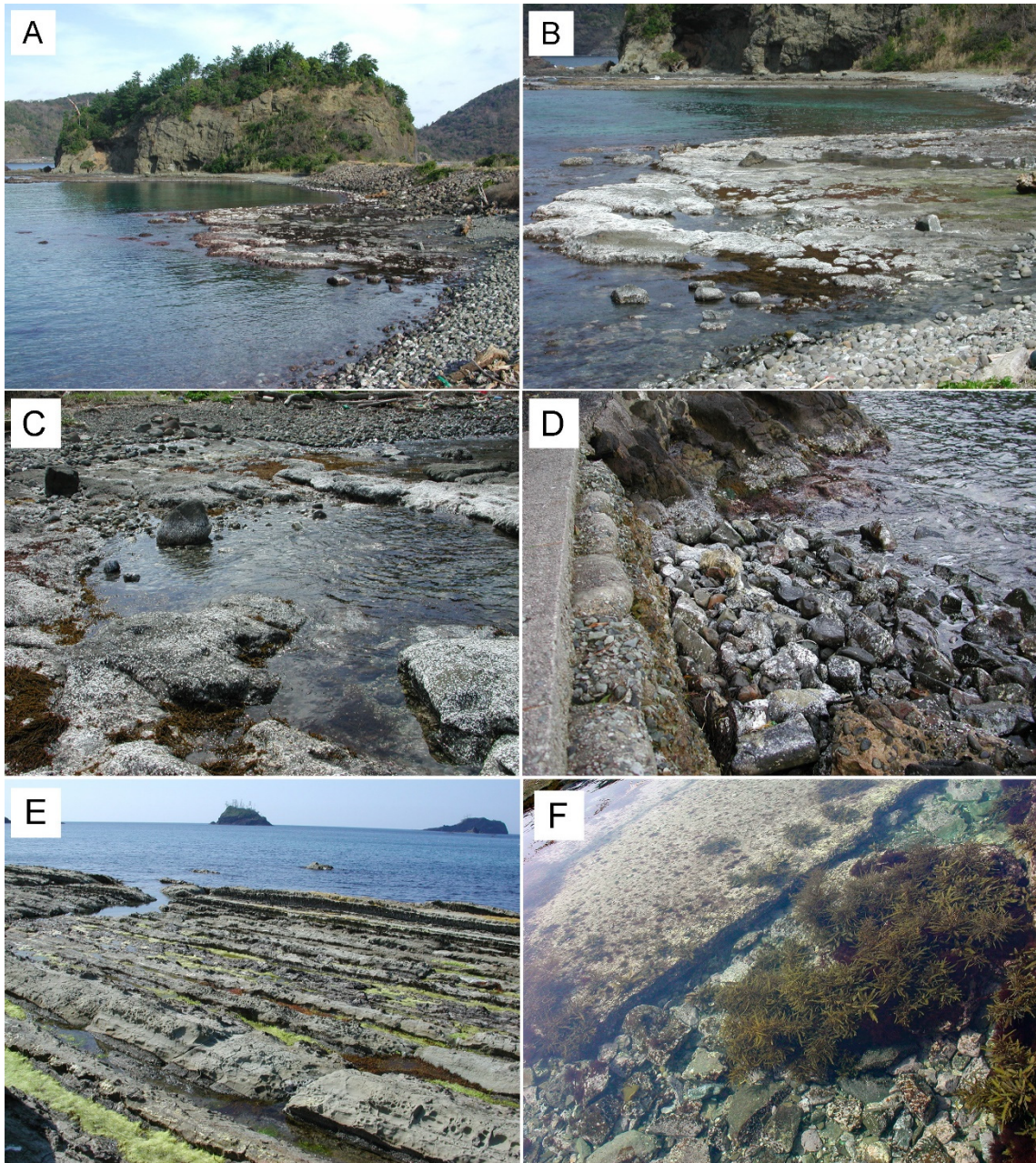


図 5. A, 島根県松江市島根町加賀桂島, 北側の湾; B, 同, 湾の中央, 岩礁・転石域; C, 同, 湾の中央, 岩礁, タイドプール; D, 同, 湾の左方, 転石域; E, 松江市島根町小具, 岩礁; F, 同, 潮下帯, 転石域.



図 6. A, ユビナガホンヤドカリ *Pagurus minutus* Hess, 1865 (島根県松江市島根町佐波); B, ユビナガホンヤドカリ *Pagurus minutus* Hess, 1865 (松江市八束町森山堤防); C, ホンヤドカリ *Pagurus filholi* (De Man, 1887) (松江市島根町佐波); D, ヨモギホンヤドカリ *Pagurus nigrofascia* Komai, 1996 (海士町福井); E, ベニホンヤドカリ *Pagurus rubrior* Komai, 2003 (左側), ヤマトホンヤドカリ *Pagurus japonicus* (Stimpson, 1858) (右側) (松江市島根町小具); F, ハマスナホリガニ *Hippa truncatifrons* (Miers, 1878) (松江市鹿島町古浦).

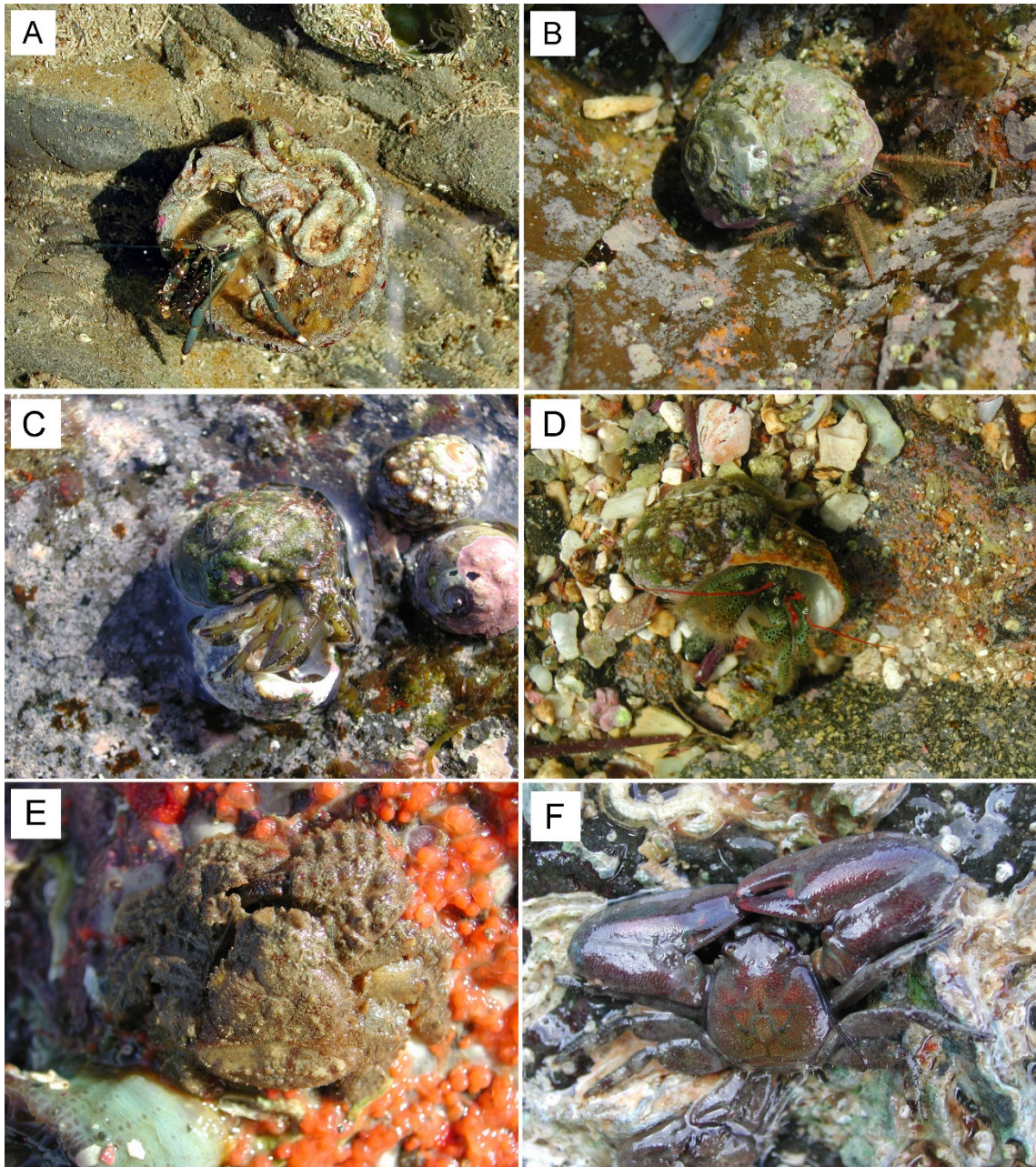


図 7. A, イソヨコバサミ *Clibanarius virescens* (Krauss, 1843) (島根県松江市島根町小具); B, ケブカヒメヨコバサミ *Paguristes ortmanni* Miyake, 1978 (松江市美保関町菅浦); C, ホンヤドカリ *Pagurus filholi* (De Man, 1887) (松江市島根町加賀桂島); D, ケアシホンヤドカリ *Pagurus lanuginosus* De Haan, 1849 (松江市美保関町菅浦); E, ヒラトゲガニ *Hapalogaster dentata* (De Haan, 1849) (松江市島根町加賀桂島); F, イソカニダマシ *Petrolisthes japonicus* (De Haan, 1849) (松江市島根町加賀桂島).



## 島根県および鳥取県沿岸からの記録種の説明

「山陰」から記録されている 82 種 (表 1)のうち, 過去の報告, そして新たに検討した標本および生時の個体画像に基づいて, 島根県および鳥取県沿岸から合計 75 種が記録・確認されており (表 2), 当地域の記録種は, 「山陰」全体の記録種のほぼ全体を網羅している. そのうち, 標本または画像を直接検討することができた 67 種について概説する. なお調査標本には, これまでに記録情報の少ない兵庫県沿岸から採集された標本も一部加えている.

## Hippoidea スナホリガニ上科

## Albuneidae クダヒゲガニ科

*Albunea groeningi* Boyko, 2002 ヒメクダヒゲガニ

(図 8)

**調査標本.** 鳥取県. 美保湾, アカエイ胃内容物, 2013 年 6 月 18 日, 1 オス (cl 6.3 mm), 3 メス (cl 7.5–8.3 mm), SNMH. 美保湾, ヨコスジフエダイ胃内容物, 2013 年 10 月 1 日, 1 メス (cl 7.9 mm), SNMH.

**分布.** マダガスカル, オーストラリア, マレーシア・フィリピンから台湾・日本 (Boyko, 2002, 2010). 国内の記録は, 太平洋側では愛知県, 三重県, 高知県, 日本海側では富山県, 鳥取県, そして沖縄島 (Boyko, 2002; Osawa and Fujita, 2007; 締次・木村, 2019).

**生息場所.** 砂泥底; 潮間帯から水深 45.7 m (Boyko, 2002; Osawa and Fujita, 2007).

**備考.** 調査標本は, 美保湾において採集されたアカエイ *Hemistrygon akajei* (Bürger in Müller and Henle, 1841)およびヨコスジフエダイ *Lutjanus ophuysenii* (Bleeker, 1860)の胃内容物中から得られた.

日本海沿岸から記録されているクダヒゲガニ科は, ヒメクダヒゲガニ, クダヒゲガニ *Albunea symmysta* (Linnaeus, 1758), ナメラカクダヒゲガニ *Paralbunea dayriti* (Serène and Umali, 1965)の 3 種を含む (岸田, 1963a; Boyko, 2002; 大澤ほか, 2022)が, 本科の記録は日本側本州沿岸に限られている. ただし, Boyko (2002)以前の日本国内の報文では, 日本周辺沿岸のクダヒゲガニ科の種に対して主に「クダヒゲガニ *A. symmysta*」の名前のみが認識されていた. そのため過去の記録では, ヒメクダヒゲガニやコジワクダヒゲガニ *Albunea occulta* Boyko, 2002 のような近似の別種が「クダヒゲガニ」として同定されていた可能性がある. 山陰からの「クダヒゲガニ」記録 (岸田, 1963a: 兵庫県新温泉町諸寄; 佐藤・加藤, 1996: 鳥取県美保湾)は, その種名が記載されているのみであり, 検証できない.

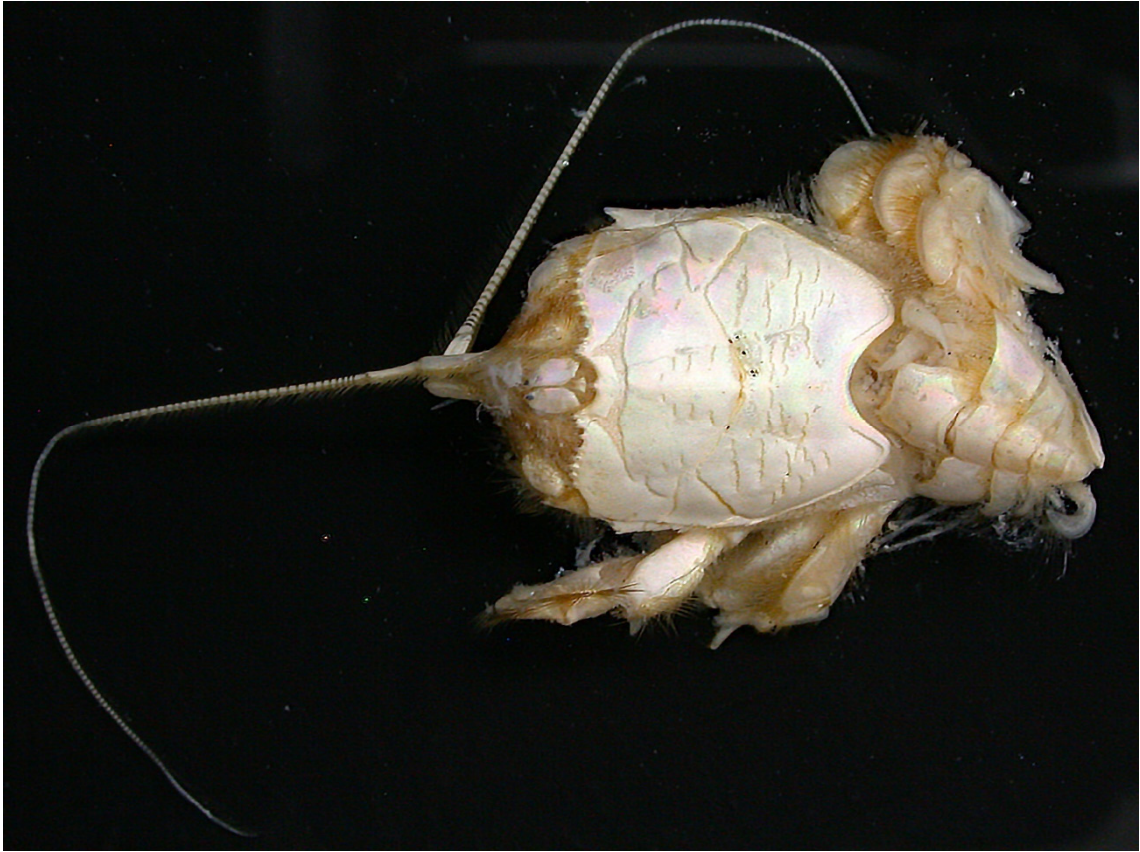


図 8. *Alibunea groeningi* Boyko, 2002 ヒメクダヒゲガニ, 鳥取県美保湾, メス (cl 8.3 mm), エタノール液浸.

***Paralbunea dayriti* (Serène and Umali, 1965) ナメラカクダヒゲガニ**

(図 9)

**調査標本.** 島根県. 松江市美保関町菅浦 (菅浦湾西部), 水深5–6 m, 砂底, 2020年9月10日, 1性不明・破損個体 (cl 10.3 mm), SNMH.

**分布.** オーストラリア (西オーストラリア, キーンズランド, ニューサウスウェールズ), ニューカレドニア, タヒチ, マーシャル諸島, マリアナ諸島 (グアム), フィリピン, 台湾, 日本 (Boyko, 2002, 2010; Osawa et al., 2010). なお, Boyko (2020)が報告しているフィリピン産の標本は, 水深50–500 mに仕掛けられた刺網により採集されている. 国内の記録は, 太平洋側では千葉県, 神奈川県, 愛知県, 和歌山県, 日本海・東シナ海側では島根県, 長崎県, 熊本県 (Boyko, 2002; 大澤ほか, 2022).

**生息場所.** 水深6.1–45.5 m (Boyko, 2002). 島根県から採集された標本は, 水深5–6 mの砂底において, 表面から約10 cmの深さに埋在していた (大澤ほか, 2022).

**備考.** 調査標本は, 採集後に腹部や胸脚を紛失した破損個体である.

日本から記録されているナメラカクダヒゲガニ属 *Paralbunea* Serène, 1977 は, ナメラカクダヒゲガニと沖縄島から記載されたタケダクダヒゲガニ *P. takedai* Osawa and Fujita, 2012 の2種であり, 日本海沿岸からの記録はナメラカクダヒゲガニに限られる (Boyko, 2002; Osawa and Fujita, 2012; 大澤ほか, 2022).

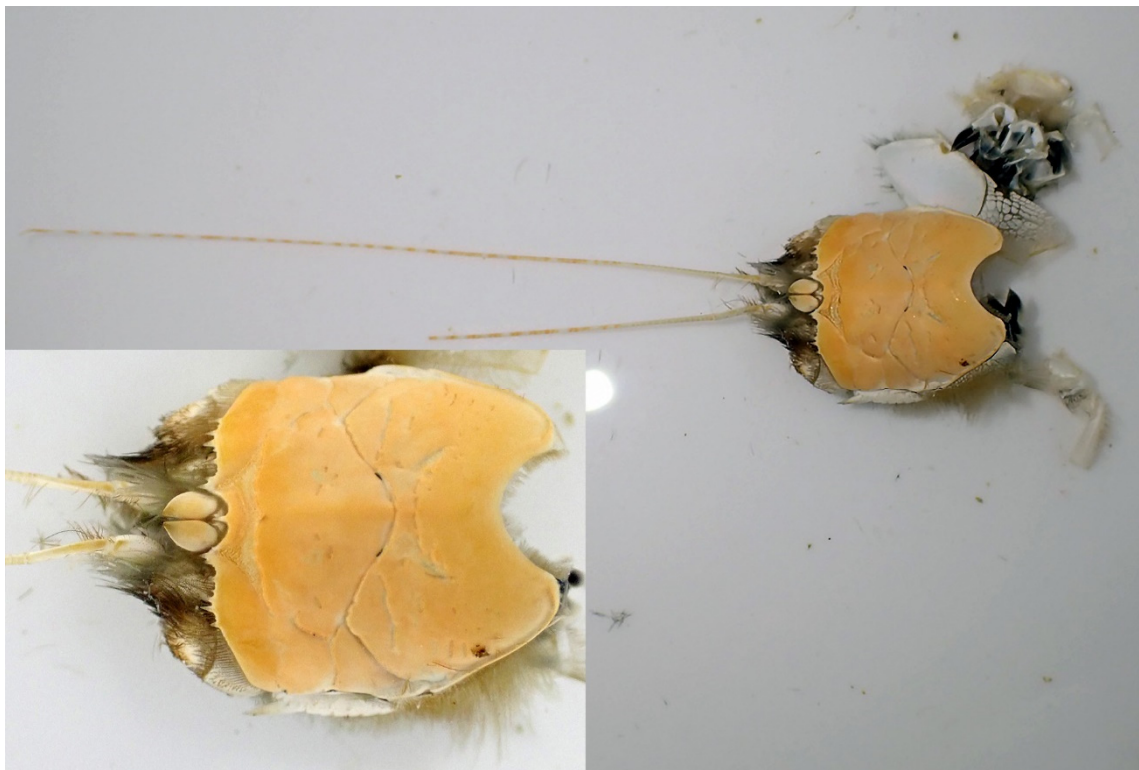


図 9. *Paralbunea dayriti* (Serène and Umali, 1965) ナメラカクダヒゲガニ, 島根県松江市美保関町菅浦, 性不明個体 (cl 10.3 mm), エタノール液浸.



**Blepharipodidae** キタクダヒゲガニ科***Blepharipoda liberata* Shen, 1949** フシメクダヒゲガニ

(図 10)

**調査標本.** 鳥取県. 福部 (鳥取市福部町), 水深 50–90 m, 1953 年 5 月 17 日, 1 抱卵メス (cl 28.0 mm), TRPM (305-061-02).

**分布.** 中国, 韓国, 日本 (Boyko, 2002). 国内の記録は, 太平洋側では相模湾, 和歌山県, 日本海・東シナ海側では北海道 (余市町) から山口県, 福岡県, 熊本県 (天草市) (本尾, 2007; 三宅, 1998).

**生息場所.** 砂泥底; 低潮線下から水深 90 m (朝倉, 1995; 三宅, 1998).

**備考.** 調査標本は, Miyake (1978) が検討した標本中に含まれている 1 個体である. 標本は保存液中で脱灰が進んでおり, 現在の状態は良くない.

島根県・鳥取県におけるフシメクダヒゲガニの記録は, 島根県西ノ島町 (隠岐諸島 島前西ノ島; 加藤・池田, 1992), 鳥取県鳥取市賀露町・福部町 (Miyake, 1978; Boyko, 2002)を含む.

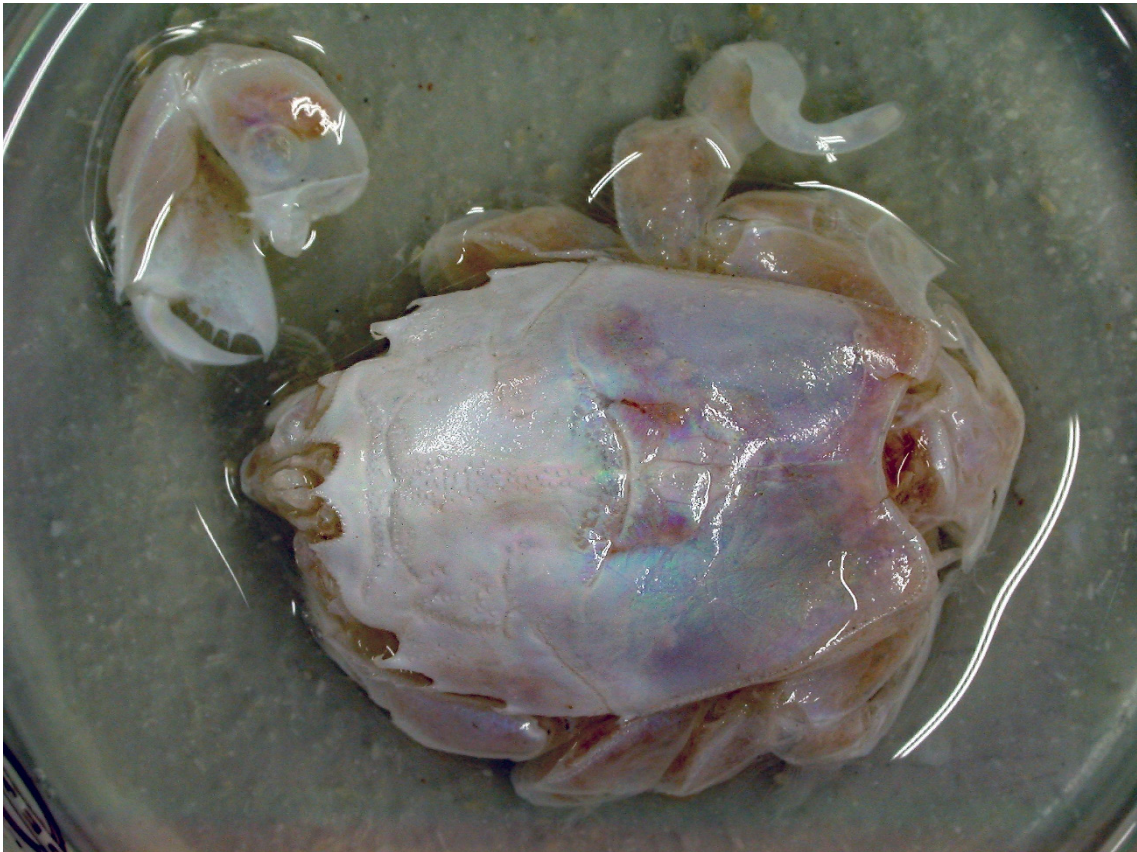


図 10. *Blepharipoda liberata* Shen, 1949 フシメクダヒゲガニ, 鳥取県鳥取市福部町, 抱卵メス (cl 28.0 mm), 液浸.

**Hippidae** スナホリガニ科***Hippa truncatifrons* (Miers, 1878)** ハマスナホリガニ

(図 6F, 11)

**調査標本.** 島根県. 松江市鹿島町古浦, 砂浜, 潮間帯, 2013年5月18日, 2メス (cl 14.6, 15.8 mm), SNMH. 鳥取県. 岩美町羽尾, 2009年8月16日, 1メス (cl 7.2 mm), 2抱卵メス (cl 8.5, 9.2 mm), TRPM-CB-0000592. 羽合町 (湯梨浜町)宇野, 2001年9月8日, 8乾燥性未確認個体 (cl 6.7–9.0 mm), TRPM (未登録).

**分布.** 中国, 台湾, 日本 (太平洋側: 相模湾, 駿河湾, 高知県; 日本海・東シナ海側: 山形県から福岡県, 鹿児島県長崎鼻 (加藤・鈴木, 1992; 三宅, 1998; Osawa et al., 2010; 土井・鈴木, 2022)).

**生息場所.** 砂浜; 潮間帯, 波打ち際 (加藤・鈴木, 1992; 峯水, 2002; 図 3F).

**備考.** 日本沿岸からのスナホリガニ属 *Hippa* Fabricius, 1787 は, ミナミスナホリガニ *H. adactyla* Fabricius, 1787, スナホリガニ *H. marmorata* (Hombron and Jacquinet, 1846), ハマスナホリガニの3種を含む (三宅, 1998; Osawa et al., 2010). 日本海沿岸では, ハマスナホリガニのみが確認されている.

本種は, 波打ち際付近において, 波の流動に合わせて砂地中に潜ったり, 砂地中から出たりという行動を繰り返しているため, 通常見出すことは難しい. 加えて, 同じ砂浜でも生息している場所は限定されている可能性があり, 普段は目に触れることが少ない沿岸性の異尾類であると考えられる.

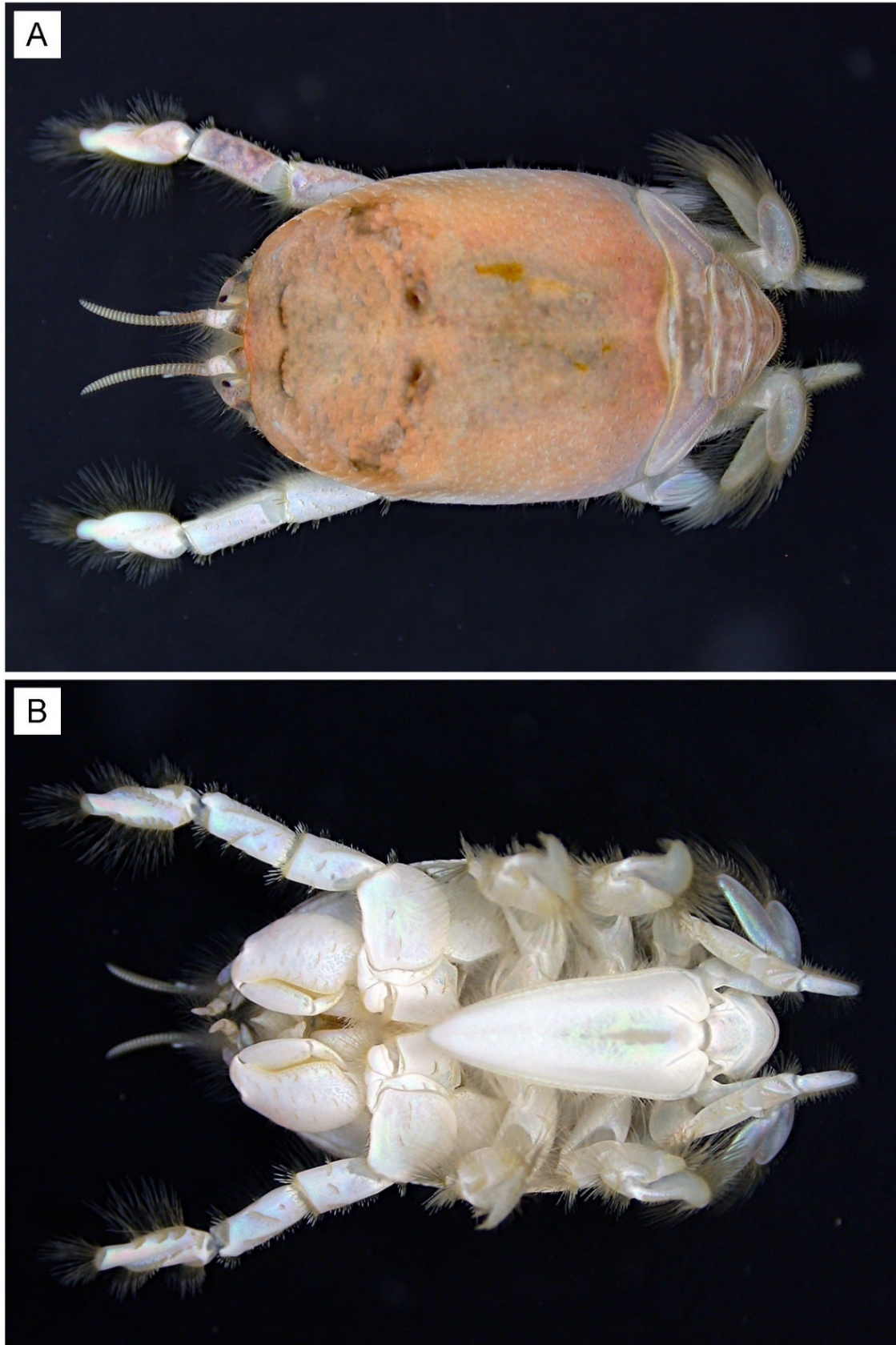


図 11. *Hippa truncatifrons* (Miers, 1878) ハマスナホリガニ, 島根県松江市鹿島町古浦, メス (cl15.8 mm), 背面 (A); 同, 腹面 (B).